

HBV母子感染予防処置実施後長期追跡例の経過 および外国出身HBs抗原陽性妊婦の増加傾向

多田裕^{1,2)}、三科潤²⁾

要約： HBe抗原陽性の母親から出生し予防処置を行なった児を長期に追跡したが、2才以降にHBs抗原陽性のキャリアとなった例は認められなかった。HBs抗原持続陽性が3.0%、HBc抗体持続陽性あるいは低下後再上昇が22.1%に認められた。HBe抗原陰性の母親から出生した児に予防処置を行った結果では、感染者は認められなかった。最近では、出身地が外国である妊婦が増しており、これらの妊婦にHBs抗原陽性者が多いことも指摘した。

見出し語： 母子感染予防、長期追跡成績、HBs抗原キャリア、HBc抗体持続陽性

I) HBe抗原陽性母体からの出生し予防処置を受けた児の追跡成績

(1) HBs抗原検査結果

昭和55年1月から平成3年12月までの12年間に東京都立築地産院で出生した児のうち、HBe抗原陽性の母親から出生した児は399例であり、このうち臍帯血のHBs抗原が陽性で子宮内感染と考えられる3例を除く396例に、HBIGおよびHBワクチンを用いた母子感染予防処置を実施した。

HBs抗原が持続陽性（キャリア）となった児は12例（途中で処置を中止した脱落例を含む）で、3ヶ月以内に陽性となった例が

4例、予防処置を途中で中止し6ヶ月で陽性となった例が1例、1才以降2才までに陽性となった例が7例であった。他に3例が一過性のHBs抗原出現を見たが経過中にHBs抗体が出現した。

(2) HBc抗体による一過性感染の検討

予防処置を実施したのち3年以上経過を追跡した187例のHBc抗体の経過を見たところ、1才以降もHBc抗体陽性が持続している児は23例、3才以降に一旦陰性化したHBc抗体が陽性となった児は16例、合計39例20.9%がHBc抗体測定により一過性の感染を経過していると考えられた。

¹⁾ 東邦大学医学部新生児学教室 (Dept. of Neonatology, Toho Univ. School of Medicine)

²⁾ 東京都立築地産院小児科 (Div. of Pediatrics, Tsukiji Maternity Hospital)

II) HBs抗原陽性・HBe抗原陰性の妊婦からは生まれた児に対する予防効果

HBs抗原陽性・HBe抗原陰性の妊婦からは生まれた106例に対し、出生直後にHBIGを1回投与し、HBワクチンは生後2、3、5ヶ月に投与する方法で予防処置を実施したが、HBs抗原が陽性となった例はなく、HBc抗体も1例で上昇が疑われた他には持続陽性例は認められなかった。

III) ワクチンの種類によるHBs抗体産生能の差異

3回のワクチン接種では能動免疫の産生が認められなかった児に対しては、4回以上のワクチン接種を行った。

4回以上のワクチン接種を実施した児の頻度は下記の通りで、遺伝子組換えによるワクチンは抗体産生能に優れていることが明らかになった。

血漿由来ワクチン(アジュバンドなし)

78例中50例(64.1%)

血漿由来ワクチン(アジュバンドあり)

188例中102例(54.3%)

遺伝子組換えワクチン

84例中1例(1.2%)

IV) HBs抗原陽性妊婦中の外国人の比率の上昇

近年わが国ではHBs抗原陽性のキャリアの頻度が低下していることが報告されている。

東京都立築地産院では、全国的に予防処置が実施されるようになる以前は、専門施設として予防処置希望者が集中していた。しかし、各病院で予防が実施がてき became 様になった結果、表1のように患者の集中がなくなったため、HBs抗原陽性妊婦の頻度の変化については正確な統計は得られない。しかし、キャリアの中に占める外国人の頻度は近年上昇の傾向が明らかである。これらの数値は、今後日本人の妊婦のキャリアが減少しても、日本の国際化とともに、外国出身者との結婚がふえるので、HBV母子感染予防の重要性は変わらないことを示唆するものであると考えられる。

表1 HBs抗原陽性妊婦にしめる外国人の比率(カッコ内:外国人)

	出生数	HBe (+)	HBe (-)	合計
1980-84年	9553	228 (8)	205 (7)	433 (15)
1985-89年	8620	157 (18)	202 (7)	359 (25)
1990-91年	2815	18 (5)	37 (2)	53 (7)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: HBe 抗原陽性の母親から出生し予防処置を行なった児を長期に追跡したが、2 才以降に HBs 抗原陽性のキャリアとなった例は認められなかった。HBs 抗原持続陽性が 3.0%、HBc 抗体持続陽性あるいは低下後再上昇が 22.1%に認められた。HBe 抗原陰性の母親から出生した児に予防処置を行った結果では、感染者は認められなかった。最近では、出身地が外国である妊婦が増しており、これらの妊婦に HBs 抗原陽性者が多いことも指摘した。